２０１３年９月吉日

薬系大学･大学院　関係者各位

慶應義塾大学大学院 薬学研究科

研究科委員長　望月　眞弓

薬学部教授　中村　智徳

（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

高度がん医療開発を先導する専門家の養成プログラム）

**薬学関係のがんプロフェッショナル養成に関するアンケート**

謹啓　諸先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、関係の諸先生方にお願いしたいこととしまして、平成24年度から開始された文部科学省事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」への参加の有無を問わず、全国の薬学部設置大学及び大学院が、がんプロフェッショナル養成にどのように取り組んでいるか情報を収集し、共有化することを目的としたアンケートに協力して頂きたく、お願い申し上げる次第でございます。

この「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、がんを専門とする医療人や研究者の人材育成の支援を目的として、各大学の特色を生かした研修コースが設けられ、全国で15の取り組みが進められています。このプランは、平成19年度から5年間にわたって行われた「がんプロフェッショナル養成プラン」を発展させたもので、医師だけでなく、看護師、薬剤師、医学物理士など医療スタッフの養成も目指しています。

たいへんお忙しいところ誠に恐縮には存じますが、何卒ご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、回答いただきました研修等に関連しますシラバス、入試要綱等をご提供頂けます場合は、回答に同封してくださいますようお願い申し上げます。

謹白

**回答期限：２０１３年９月２０日（金）まで　必着**

**回答送付先：〒105-8512 東京都港区芝公園1-5-30**

**慶應義塾大学大学院薬学研究科　がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局**

**Mail:kyg-sympo@adst.keio.ac.jp**

※同封いたしました宅配便の伝票を封筒に貼りお出しください。

**慶應義塾大学主管 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」概要**

　文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に、慶應義塾大学を主管とする10大学15研究科が参画する「高度がん医療開発を先導する専門家の養成プログラム」が採択されています。

　がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっています。そのため、本事業は、「基礎研究とトランスレーショナル研究（TR）の推進」と「がん患者のQOLを向上するための人材育成」をスローガンとして、それぞれの領域において強みを持つ10大学15研究科が、相補的かつ相乗的に教育を展開することで、高度で質の高いがん医療を担う人材を育成することを目的としています。

**連携大学及び研究科**

慶應義塾大学大学院医学研究科、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、慶應義塾大学大学院薬学研究科、北里大学大学院医療系研究科、北里大学大学院看護学研究科、北里大学大学院薬学研究科、首都大学東京大学院人間健康科学研究科、信州大学大学院医学系研究科、聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科、聖路加看護大学大学院看護学研究科、東海大学大学院医学研究科、東京歯科大学大学院歯学研究科、山梨大学大学院医学工学総合研究部、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科、国際医療福祉大学大学院薬学研究科

|  |
| --- |
| **文部科学省事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の「期待される成果や効果」****（平成24年3月29日付け文部科学省発表「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の選定結果　「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見からの抜粋」）****(1) がん教育研究基盤の構築**がんに特化した臓器横断的な講座が今後5年間で合計43講座程度設置（放射線治療に特化した講座9講座、化学療法に特化した講座7講座、緩和医療に特化した講座10講座、その他17講座）される計画となっており、がんに関する教育研究基盤が劇的に改善することが期待される。**(2) がん教育改革の推進**本事業では、5年間で大学院の課程に、がん医療に専門的に携わる医師を1,800人程度、医師以外の医療スタッフ（看護師、薬剤師等）を1,200人程度受け入れるとともに、様々な特色ある取組や教育改革が計画されている。**(3) がん医療の均てん化**がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切ながん医療を受けられるようにするため、本事業では、各地域で活躍するがん専門医療人の養成を行うこととしている。 |

**アンケート**

*電子媒体での入手をご希望されます場合は、以下のサイト内でダウンロードできます。*

＜http://www.pha.keio.ac.jp/gp/ganpro2.html＞

|  |  |
| --- | --- |
| 大学名 |  |
| 回答者と所属 | *（問い合わせさせていただく場合があります。回答内容を理解されている方に記入をお願いします。）* |
| ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ |  | 電話番号 |  |

以下の設問にご回答ください。

１．貴薬学部にがん薬物療法に特化した科目を設けていますか。

□「化学療法学」等の科目（講座）等を設けてがん薬物療法に特化した授業を行っている。

□「薬物治療学」「薬理学」等の授業の中で数コマ程度行ってはいるが、特にがん薬物療法に特化した科目は設けてはいない。

２．貴大学院に「がんプロフェッショナル養成の研修コース（インテンシブコースを含む）」を設置していますか？

□ 設置している。

□ 設置を予定している。

□ 設置は考えていない。→（*考えていない理由を記入ください*　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

|  |
| --- |
| 設問2で「がんプロフェッショナル養成の研修コース（インテンシブコースを含む）」を設置している或いは予定していると回答された場合→**設問3**へ設置を考えていないと回答された場合→**設問13**へ |

３．25年8月現在、設置あるいは設置を予定している「がんプロフェッショナル養成の研修コース（インテンシブコースを含む）」について、ご記入ください。

コース数：　　　　　　コース

***コースの数だけこのページをコピーしてご記入ください。***

No　　　　　コース名称：

|  |  |
| --- | --- |
| コースの重点区分 | □ 研究者養成　□ がん専門・指導薬剤師等の養成　□ 薬剤師以外のがん専門医療人の養成 |
| 履修対象者（複数回答可） | □ 薬学部既卒者（ □ 病院勤務　□ 保険薬局勤務　□ 大学勤務　□ 企業勤務　□ その他 ）　　　　□ 薬学部新卒者　　□ 薬学部以外の学部の新卒・既卒者 |
| 就業年限（研修期間） |  |
| 修了要件 |  |
| 履修方法 |  |
| 教育内容 |  |
| 年間の養成人数 |  |
| 担当講師 | 　　　　人□ 専任□ 兼任→（*具体的に記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□ 他大学から→（*具体的に記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□ 他学部から→（*具体的に記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

４．平成23年度から運用を開始している「がんプロ全国e-learningクラウド」１）を上記研修コースの

組み立てに活用していますか。

□ 既に活用している。

□ 活用を検討中である。

□「がんプロ全国e-learningクラウド」の存在を知らなかったので、今後活用の要否を検討する。

□ 活用は考えていない。

５．がんプロフェッショナル養成研修コースの策定にあたり、日本医療薬学会の「がん専門薬剤師養成研修コアカリキュラム」並びに「がん専門薬剤師養成研修ガイドライン」を参考にしていますか。

□ 参考にしている

□ 参考にすることを検討中である。

□ 参考にしない。

６．がんプロフェッショナル養成研修コースは、他大学院等と連携２）して実施していますか。またその場合に単位互換を行っていますか。

□ 他大学院と研修について連携し、さらに単位互換も実施している。

□ 他大学院と研修について連携しているが、単位互換は実施していない。

□ 他大学院との連携を検討中である。

□ 他大学院との連携は考えていない。

７．がんプロフェッショナル養成研修コースは、研修内容等の見直しを実施していますか。

□ 外部委員による外部評価を毎年実施して、研修内容等の見直しを検討している。（予定である。）

□ 上記以外の方法で研修内容等の見直しを検討している。（予定である。）
→（*具体的な方法を記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　）

□ 当面見直しは考えていない。

８．がんプロフェッショナル養成研修コースの研修計画、期待できる効果、実施による成果等について社会（学外者）に分かりやすく情報公開していますか。

□ HPで公開している。（予定である。）→(URL　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　　）

□ HP以外の方法で公開している。（予定である。）
→ （*方法について記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　 　）

□ 情報を求められれば、提供する用意はしている。（予定である。）

□ 情報公開は行わない。

９．がん専門・指導薬剤師等の養成に重点を置いた研修コースで、養成を目指す認定資格を教えてくだ

さい。（複数回答あり）

□ がん専門薬剤師（日本医療薬学会認定、広告可能）

□ がん指導薬剤師（日本医療薬学会認定、広告不可）

□ がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会認定、広告不可）

□ 緩和薬物療法認定薬剤師（日本緩和医療薬学会認定、広告不可）

□ その他の認定薬剤師→（*具体的に記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□ がん専門・指導薬剤師等の養成に重点を置いた研修コースは設置していない。

10．がん専門・指導薬剤師等の養成に重点を置いた研修コースを担当する講師の要件をどのように考えていますか。（複数回答あり）

□ 自らも薬学研究者であり学術活動（学会発表や論文作成等）を指導できる

□ 自らもがん専門薬剤師であり、十分ながん薬物療法の経験を有し、診療に携わっている。

□ がん指導薬剤師である。

□ その他→（*具体的に記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□ がん専門・指導薬剤師等の養成に重点を置いた研修コースは設置していない。

11．がん専門・指導薬剤師の養成に重点を置いた研修コースで、臨床実習３）はどの程度の時間を割いていますか。一学期あたりのコマ数を教えてください。

 一学期あたり　　　　　　　　コマ

12．がん専門・指導薬剤師の養成に重点を置いた研修コースの臨床実習を行う医療機関を教えてください。（複数回答可）

□ がん拠点病院

□ 大学の附属病院

□ がん専門薬剤師のための認定研修施設

□ 上記以外→（*具体的に記入ください。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

13．大学等が主催するがんプロ研修、卒後研修、生涯研修等を日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修小委員会委員長へ申請４）していますか。

□ 申請している、あるいは申請中である。

□ 申請は考えていない。
→（*申請しない理由を記入ください。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

14．設問13でがん専門薬剤師研修小委員会委員長宛に申請している、あるいは申請中と回答された研修について教えて下さい。

□ がんプロ研修を申請している、あるいは申請中である。
→（*設問3出回答したコース番号を記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

□ 卒後研修を申請している、あるいは申請中である。

→（*研修内容を記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

* 生涯研修を申請している、あるいは申請中である。

→（*研修内容を記入下さい。*　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

15．がん専門薬剤師（日本医療薬学会認定、広告可能）の養成を担当する「がん指導薬剤師」の養成を大学院が担う場合、どのような点での配慮が必要でしょうか。

*例） 他職種間での臨床研究を推進し、研究成果を論文にまとめる環境の提供*

16．がん研究者並びにがん指導薬剤師には、基礎だけでなく臨床研究の経験も必要です。臨床研究のた

めに薬学大学院は、どのような研修内容の強化が必要とお考えですか。

□ コーディネーターやデータマネージャー等の臨床試験支援能力

□ 他職種間での臨床研究を推進し、研究成果を論文にまとめる環境の提供

□ 医療機関での臨床研究や製薬企業との橋渡し研究による研究能力

□ トランスレーショナル研究の推進能力

□ 臨床試験の計画、プロトコル作成、倫理委員会申請、事前登録、試験の遂行の能力

□ その他（以下にご記入ください）

17．その他、ご意見等をご記入ください。

＜後注＞

1)「がんプロ全国e-learningクラウド」とは、同じ講義項目について、各大学が自由にそのコンテンツを活用できるシステムで、各大学の実情に合わせた科目の設定、講義の組み立てが可能です。(<http://kanto-kokusai-ganpro.md.tsukuba.ac.jp/gnavi-cateid-2/gaiyo002>)

2) 他大学院と連携とは、同一の研修を共有化したり、合同で実施したりすることであり、常に最新の情報での研修が迅速に実施できること並びに効率化が期待できます。

3) がん専門医療人の養成・連携強化等に重点を置いた研修コースにおける臨床実習の1/2の期間は、がん専門薬剤師になるための認定研修施設における5年間の研修（50単位）に組み込み可能です。

4) がん専門薬剤師（日本医療薬学会認定、広告可能）は、がん領域の講習会を50単位以上履修することが資格要件です。受講単位として算入できる講習会には大学等が主催するがんプロ研修、卒後研修、生涯研修等も含まれますが、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修小委員会委員長への申請が必要です。

アンケートへのご協力ありがとうございました。